

東アジア海洋会議2006の概要

平成18年1月
国土交通省総合政策局
環境・海洋課海洋室

東アジア海洋会議 2006

- 目 的:**東アジア海域における環境管理と持続可能な開発の促進のため、政府、国際機関、NGO、研究者等の幅広い関係者間の連携・協力の強化。
- 日 時:**2006年12月12日から16日まで
- 場 所:**中国・海南島
- 主 催 者:**東アジア海域環境管理パートナーシップ (PEMSEA: Partnerships in Environmental Management for the Seas of East Asia)、中国政府、その他関係機関。
- 対 象 者:**政府、地方政府、国際機関、NGO、研究者、地域コミュニティ、その他海洋環境管理・使用の関係者
- 閣僚級会合:**当該会議に併せて閣僚級会合が開催予定。同会合においては、東アジア海域の持続可能な開発戦略 (SDS-SEA: Sustainable Development Strategy for the Seas of East Asia) の実行のための枠組みについての合意文書である Partnership Agreement が採択予定。
- セミナー・ワークショップ:**当該会議に併せて多くのセミナー・ワークショップが開催予定。主なテーマは、持続可能な沿岸域・海洋開発、沿岸域・海洋統治、生態系管理、エコ・レベリングと認証、沿岸域・海事の安全・保安、経済学と金融、管理に関する科学と技術。

【参考1】 東アジア海洋会議 2003 について

2003年12月に、マレーシア・プトラジャヤにおいて開催された東アジア海洋会議 2003 においては、政府、国際機関・団体、大学・研究機関、企業、NGO、有識者、メディア等から約 450 人が出席した。また、同会議に併せて開催された第1回東アジア海の持続可能な開発に関する閣僚会議において、PEMSEA の 12 の参加国により SDS-SEA が採択された。

【参考2】 SDS-SEA (Sustainable Development Strategy for the Seas of East Asia) について

東アジア海域の持続可能な開発戦略 (SDS-SEA) とは、東アジア海域の環境悪化に対する現状認識と環境管理の必要性、持続可能な開発に向けた具体的施策、その実施のための必要な政策及び技術上の方法論等を盛り込んだ戦略。

【参考3】 PEMSEA について

1. 概要

東アジア海洋における環境保全と調和した持続可能な開発についての各国、有識者等の連携強化を目的に、IMO 及び UNDP(国連開発計画)の下、GEF 地域プログラムとして1994 年より実施。プログラムの運営に関しては、GEF(Global Environmental Facility:地球環境基金)からの資金援助が活用されている。

2. 参加国

東アジア及び東南アジアの12カ国(ブルネイ、カンボジア、中国、韓国、インドネシア、日本、マレーシア、フィリピン、北朝鮮、シンガポール、タイ及びベトナム)。事務局は、フィリピン国マニラ市。日本のフォーカルポイントは、国土交通省。

3. 特徴

単なる「環境保護」ではなく、環境保全と調和した「持続可能な開発」を基本理念とした統合沿岸域管理(Integrated Coastal Management; ICM)を重視している。目標・戦略等を共有し各主体が可能なことを着実に実行していく「パートナーシップ」や「協働」を基本理念としており、法的拘束力を伴う活動は行っていない。

4. ICM事業事例

シアメン(Xiamen)(中国)

- ・ 環境調査(海域に関する基礎データ収集)
- ・ 環境管理戦略計画の策定
- ・ 沿岸域のゾーニング(区分管理)計画の策定
- ・ 沿岸養殖による汚染管理
- ・ 水質基準の設定及びモニタリングの実施
- ・ 海洋環境問題の広告

シアヌークビル(Sihanoukville)(カンボジア)

- ・ 環境調査(海域に関する基礎データ収集)
- ・ データ収集及び分析に関する人材育成
- ・ ビーチ環境の品質モニタリング
- ・ 沿岸域のゾーニング(区分管理)計画の策定

シウワ湖(Shihwa)(韓国)

- ・ 海洋水産部、自治体及び地域住民がパートナーシップを締結し、水質改善、野生生物生息環境の再生、沿岸域の持続可能な開発等について行動計画を策定
- ・ 廃水処理施設、潮力発電所の稼働
- ・ 人工湿地の造成

キャヴァイト(Cavite)(フィリピン)

- ・ 沿岸戦略及び5カ年実行計画を策定
- ・ マングローブの再生
- ・ 違法漁業の取締り
- ・ 漁業区域の指定